

2020年度 小委員会活動成果報告

(2021年 2月 3日作成)

小委員会名	都市防火小委員会	主 査 名：加藤 孝明 就任年月：2019年 4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	防火委員会	委員長名：原田和典
設 置 期 間	2019年 4月 ～ 2023年 3月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>広域避難の問題にとどまらず、最近の市街地状況をふまえて延焼火災の性状そのものについて改めて検討を行うとともに、市街地の防火対策、消防活動にかかる対策について体系的に再整理し、加えて新たな視点から検討を行い、市街地延焼に関して時代的な総括を行う。</p> <p>初年度：公開小委員会を年5回開催し、次の項目について検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大都市と地方都市の典型市街地の実態、及びそれぞれの既存の都市防火対策の課題 ・市街地火災シミュレーションと建築レベルの延焼拡大モデルの接続 <p>2年度：公開小委員会を年5回程度開催し、1年目の項目について議論を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存各種の市街地火災シミュレーションの特徴と課題の比較整理 ・各モデルの性能妥当性検証のための方法論の検討 ・火災シミュレーションの比較検証用のデータセットの整備の検討および整備 ・関東地震当時の市街地状況データの再現整備方法の検討 <p>3年度：公開小委員会を年5回程度開催し、下記について議論を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市大火及び人的被害のリスク評価 <p>4年度：大会においてこれまでの成果をもとにパネルディスカッション、あるいは、研究協議会を行う。公開小委員会を年5回程度開催し、下記について議論を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PD・研究協議会の資料作成を通じて4年度までの成果をまとめる ・都市防火対策を支える各種防災対策とその効果に関する整理 <p>PDもしくは研究協議会での議論に基づき議論をさらに深め、学術的知見の体系化をはかり、研究成果の積極的な公表に努める。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有(2019年)</p> <p>主査：加藤孝明(東京大学)</p> <p>幹事：梅本通孝(筑波大学)、廣井悠(東京大学)</p> <p>委員：糸井川栄一(筑波大学)、市古太郎(首都大学東京)、岩見達也(建築研究所)、江田敏男(建築ピボット)、大佛俊泰(東京工業大学)、坂井遼(マヌ都市建築研究所)、佐々木克憲(応用地質)、関澤愛(東京理科大学)、竹谷修一(建築研究所)、西田幸夫(埼玉大学)、西野智研(京都大学)、吉川仁(防災アード都市づくり計画室)</p>	
設置WG (WG名：目的)	なし	
2020年度予算	170,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等)	なし
大会研究集会	— (2020年度大会(関東)諸行事は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止)
対外的意見表明・パブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既存各種市街地火災シミュレーションの特徴と課題の比較整理を進めた。 2. 各モデルの性能妥当性検証のための方法論の検討を進めた。 3. 火災シミュレーションの比較検証用のデータセット整備の検討を進めた。 4. 関東地震当時の東京の市街地状況の再現データ整備方法の検討を進めるとともに、データの整備作業に着手した。 5. 活動の展開を充実するために応募していた鹿島学術振興財団の研究助成制度に採択された。
委員会活動の問題点 ・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新型コロナウイルス感染症拡大防止のために予定通りに委員会を開催することができず、当初予定ほどには研究計画を進捗できなかったが、今後は、オンライン会議も活用するなどして研究計画の進捗を図る。